

テレビの天気予報を見ていると、西の地方から順に、雨のマークが東へ移っていくことがあります。日本の天気は、多くの場合、西から東へと変わっていくのです。天気予報では、こうした雲の動きを、気象衛星から送られてくる画像などで調べています。そのわけは、日本の上空に、いつも西から東へ向かって強い風がふいているからです。この風を、偏西風へんせいふうといいます。雲は、この偏西風へんせいふうに流されて、西から東へと動いていきます。雲が動けば、雨をふらせる場所も、いっしょに移っていきます。

昔から、「夕焼けの次の日は晴れ」と言われてきました。夕焼けが見えるのは、太陽がしずむ西の空に、雲が少ないからです。西の空が晴れていけば、次の日には、その晴れた空が東へ移ってきて、晴れになりやすいというわけです。

ただし、夏から秋にかけての台風のように、偏西風へんせいふうとは関係なく動くものもあります。天気の変化を予想するときには、いろいろな情報を合わせて考えることが大切です。

日本の天気は、多くの場合、どのように変わっていきますか。

東から西へ

西から東へ

ウ 北から南へ

日本の上空で、西から東へふいている強い風を何といいますか。

へんせいふう

夕焼けが見えるのは、西の空がどうなっているからですか。

雲が少ないから。

雨がふっているから。

ウ 風が強いから。

偏西風とは関係なく動くものとして、本文に出てくるものは何ですか。

台
風

- ・ 実際に数日分の天気図や雲の画像を並べて、雲の動きを確かめてみましょう。